

# 学校配当予算 令和2年度執行計画・令和元年度決算報告

横浜市立若葉台特別支援学校  
(通称：横浜わかば学園)

令和2年度に配当された学校予算の執行計画と令和元年度の決算についてお知らせいたします。  
市の厳しい財政状況、保護者の負担軽減、本校の特色ある教育活動、学用器具費の学級割単価減額等を考慮し、学校予算は例年以上の節約と効率的・計画的執行が必要となっています。  
今年度につきましても、適性かつ効率的な執行に努めます。ご理解とご協力をお願いいたします。

## 1 令和2年度学校配当予算執行計画額及び令和元年度決算額

(単位：円)

分類	費目	令和元年度 決算額	令和2年度 配当予算額	令和2年度 執行計画額	支出内容
学校運営 振興費	報償費	1,365,484	750,000	1,120,000	教育支援ボランティア、進路実習先謝礼等
	消耗品費	7,786,729	5,739,000	7,202,300	税込価格30,000円未満の消耗物品
	食糧費	9,427	50,000	5,000	来賓接遇用茶菓
	印刷製本費	41,800	303,000	42,000	学校紹介パンフレット、学校要覧印刷等
	修繕料(備品修理)	163,012	497,000	250,000	事務機器、環境備品、給食室備品の修繕費等
	通信運搬費	227,366	108,000	250,000	切手・はがき代、携帯電話料等
	手数料	181,392	81,000	200,000	ピアノ調律、図書装備、備品点検等
	委託料	134,832	53,000	140,000	粗大ゴミ処理委託、印刷機電子部品保守等
	使用料及び賃借料	434,706	262,000	430,000	PCソフトウェア、教員施設入場料等
	学用器具費	600,760	2,785,000	1,130,000	税込価格30,000円以上の備品
	図書費	374,649	402,000	380,000	図書室用図書の購入
	負担金等	7,000	21,000	1,000	学校警察連絡協議会分担金等
	修繕料(施設修理)	596,620	604,600	600,000	昇降口ロック取付、エアコン修繕、人感センサー修繕等
	手数料(施設点検)	0	30,000	0	
修繕料(校地修理)	0	64,700	0		
小計		11,923,777	11,750,300	11,750,300	
学校管 理費※1	燃料費	8,722	9,000	9,000	非常用発電機・草刈り機用のガソリン代
	報償費(学校巡回員)	184,000	200,000	200,000	学校巡回員の報酬
小計		192,722	209,000	209,000	
特別配 当※1	工事請負費	581,900	※2	※2	校内各所工事
	賄材料費(給食物資)	9,119,682	11,399,828	9,000,000	給食用物資 ※今年度最終配当額未確定
	災害備蓄費	454,291	500,830	500,830	児童生徒用の災害備蓄用非常食等購入
	使用料及び賃借料 (校外指導バス借上げ)	1,313,912	1,346,400	607,885	校外指導バス・スクールバス運行管理システム
	学校防災推進事業	54,648	4,730	4,730	小学部新入児童防災頭巾購入費
	オリパラ推進事業	121,470	0	0	オリンピック・パラリンピック推進事業 (ボッチャセット)
	スポーツ選手 強化育成支援事業	68,222	0	0	パラリンピックにかかるスポーツ振興事業 (ブラインドサッカー体験用サッカーゴール)
	デジタル教科書整備	0	132,550	132,550	指導者用デジタル教科書(小学校英語)
	新型コロナ対策費	0	360,000	30,710	臨時休業中の学習指導教材等の郵送
	普通旅費(非常勤講師)	740	15,000	1,000	各種出張の旅費
	普通旅費(教職員)	4,363,079	4,400,000	4,397,500	各種出張の旅費
	普通旅費(企画料金)	26,480	10,000	26,500	旅行企画料金
小計		16,104,424	18,169,338	14,701,705	
合計		28,220,923	30,128,638	26,661,005	

※1 用途が決まっており、費目間での流用ができない費目です。

※2 今後必要に応じて配当される予定です。

## 2 令和2年度学校配当予算編成方針

本校の教育環境の状況や配当予算額等をかんがみ、

- 児童生徒ならびに職員の安全にかかわる部分を最優先にした予算を編成します。
- 児童生徒・職員の増加、緊急に必要な案件への対応として、一定程度予備費を確保します。

その他、編成・執行上の留意事項としては以下の通りとします。

- 限られた配当予算を最大限に活用するため、経費の削減に努めます。  
具体的には、経常物品の見直し、物品保管替えの活用、グループウェアの活用、3Rの推進です。